

ふるさと大使 かわら版

2016年夏季号（通巻80号）

■ 本会のシンボルマークは、大使同士の情報交換及び、その委嘱者との相互交流を主眼に図案化。4つのモチーフからなり、山（緑色／地方・故郷・自然）と矩形（青色／都会・テクノロジー）と円及び輪（黄、橙／人・情報・ネットワーク）を表現。

HEAD LINE

【1面】第21回「ふるさと大使全国大会2016」
10月27日開催

【2面】大使日より 第70回
若狭おばま御食国大使

——小浜市長 松崎 晃治

若狭おばま御食国大使 ——山下 晋彦

【3面】かねがさき交流会、原宿で開催
——渡邊久美子

・大使制度の小道具「とかち観光大使」

【4面】元副代表の川守田孝平さん逝去

・川守田さん、ご尽力ありがとうございました
——浅田 和幸

・追悼・川守田孝平さんのこと——葉袋 泰

・川守田さん 天国に行くのは早過ぎましたよ
——古井 勝春

【5面】インバウンドに携わって思うこと
——田村 久雄

・池田さなえさん、演劇に挑戦

【6面】ふるさとデー高知の集い、銀座で開催
——小山 勝

・「日本橋とやま館」、6月オープン

——利重 盛久

・大阪「裏なんば」が熱い ——浅田 和幸

【7面】アンテナショップを訪ねて
「まるごと高知」 ——鈴木 克也

・「がんばろう熊本!応援ツアー」のご案内

【8面】第11回「大名庭園民間サミット」
熊本大会中止に ——本多 忠夫

・ふるさとデー主催者募集

・全国ふるさと大使連絡会議の概要、編集後記他

第21回—10月27日開催— 「ふるさと大使全国大会2016」 「里山資本主義」の井上恭介氏が講演

参議院選挙の結果、現政権与党が勝利し、アベノミクスも支持を得たと言えるでしょう。とはいえ、社会全体が元気だという雰囲気ではありません。一度延期した公約の消費税引き上げを再延期しなければならなかったのは、選挙対策の面があったにせよ、国民の可処分所得が減少していることが背景にあるでしょう。“地方消滅”という不気味な言葉が飛び交うほどに地方の人口減少が進む一方、引き続き東京への一極集中が加速しています。果たして地方はこのまま衰退を続けるのか、あるいは新たな指針をみつけることができるのか。

私たち全国ふるさと大使連絡会議は、少しでもふるさと・地域の活性化に寄与したいと考え、その一環として毎年秋に「ふるさと大使全国大会」を開催してきました。昨年20周年の大会を経て今回は21回目となります。今回の記念シンポジウムでは、「里山資本主義」という言葉で地域内で循環する経済の重要性を提起したNHKプロデューサーの井上恭介氏ご講演をいただくとともに、地域で奮闘しておられる首長の皆様らによるパネル討論を開催します。「持続可能な地域」をいかにして作り出すか、何をすべきかを皆様とともに考えたいと思います。

この大会がふるさと大使の方々をはじめ、多くの方々の参加を得て、ふるさと・地域づくりのための一助となることを期待しています。

全国ふるさと大使連絡会議 代表 浅田 和幸

ふるさと大使全国大会2016の概要

日時	2016年10月27日(木) 16時15分開会(16時開場)
場所	ホテル ラングウッド 2階 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-50-5 ☎ 03-3803-1234 FAX 03-3803-2843 【JR日暮里駅 南改札口から徒歩1分】
次第	1 全国ふるさと大使連絡会議活動報告 16:15～
	2 講演とシンポジウム 16:30～
	□記念講演:「里山、里海から、日本と世界の未来開拓へ」 講師:井上 恭介氏(NHKエンタープライズ・エグゼクティブディレクター)
	□パネル討論:「縮小時代に地方はかく生きる」(仮題) パネリスト:美郷町長(秋田県) 松田 知己氏 倉敷市長(岡山県) 伊藤 香織氏 牧之原市長(静岡県) 西原 茂樹氏(予定) 兼コーディネータ:松山東雲女子大学学長 塩崎千恵子氏
	3 研究発表 18:30～ (立教大学、跡見学園女子大学の学生)
	4 情報交流と懇親会 19:00～20:40

会費 7,000円(事前振込の方は6,000円)

(プログラムの時間帯は変わる可能性があります。)

※特産品等のご提供のお願い

それぞれのふるさとを紹介、自慢していただくために、地酒・ワイン・地ビールや特産品等の持ち込みを是非よろしくお願いいたします。

◆大使だより◆ 第70回 若狭おばま御食国（みけつくに）大使

「御食国 若狭おばま」

小浜市長 松崎晃治

小浜市は、福井県の南部に位置し、若狭湾を臨む人口約3万人余りの小さな市です。奈良・飛鳥の時代には、海産物や塩を朝廷に献上した御食国（御食：天皇の食材）として知られており、御食国の時代以降も「若狭の美物（うましもの）」を都に運び、京の食文化を支えてきました。



「鯖街道」と呼ばれる若狭と都とをつなぐ街道群は、様々な物資や人、文化を運ぶ交流の道であり、街道沿いに社寺・町並み・民俗文化財などによる多彩で密度の高い往来文化遺産群を形成しています。このような歴史的特色を持つストーリーである「御食国若狭と鯖街道」は、日本遺産として認定されています。

本市では、これらの誇れる歴史と食文化に着目し、2000年より「食のまちづくり」を開始し、2001年には全国初の食をテーマにした条例である「食のまちづくり条例」を制定しました。その後、市民の皆様と共に様々な食関連事業に取り組んでいます。2015年には、ミラノ国際博覧会に出展し、本市の食育プログラム「キッズ・キッチン」や、食を支える伝統産業である「若狭塗箸」など、若狭おばまの食を世界に発信しました。

「若狭おばま御食国大使」は、本市のまちづくりにご提言をいただくとともに、観光資源・文化等の情報発信をしていただくことで、観光客の誘致促進を図ることを目的に、2001年に創設され、現在70名の方に委嘱をしています。

大使の方々には、食文化館の季刊広報誌へのエッセイの寄稿を通してご提言・ご助言をいただくことをはじめ、本市の特産品のPRや市政推進に資する情報提供をいただくなど、多大なご支援をいただいております。

さて、本市では、今年5月に明治期の芝居小屋「旭座」を中心とした『まちの駅』がオープンし、既に整備されている小浜IC隣接の『道の駅』、食文化館を中心とした『海の駅』とあわせて、3駅を回遊して楽しんでいただく3駅構想が始動しております。観光都市としての環境が整いつつあり、新たな段階にまちづくりの歩みを進める時期にあたりまして、大使の皆様には、これまでの多大なご支援にお礼を申し上げるとともに、本市のまちづくりに対しまして今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「心やすらぐ美食の郷・若狭小浜」

若狭おばま御食国大使 山下晋彦

小浜市は高校まで過ごした故郷ですが、いまは両親・兄弟とも亡くなり、墓参りに帰る場所となっています。ただ、本家筋など親類は代々引き継がれ、縁が切れることはありません。市が催す各種イベントにはできるだけ参加し、冬場には東京の友人・知人を連れてカニ・ふぐを楽しんでもいます。



2001年、「若狭おばま御食国大使」が設置され、私は当時の村上市長より大使を委嘱されました。東京地区の大使には、「料亭つきじ田村」の二代目田村暉昭氏、作詞家秋元康氏、伊藤忠商事会長小林栄三氏もおられます。

朝廷に御食料を貢いだ「御食国」は、「若狭の国」（小浜市）、「志摩の国」（志摩市・鳥羽市）、「淡路の国」（淡路市・洲本市）の三国が該当しますが、小浜市の「若狭かれい」は現在も天皇家への献上品となっています。

若狭地方は海の幸（若狭かれい、越前ガニ、ふぐ等）、山の幸（谷田部ネギ、加斗の筍、さらし葛等）が豊富な処ですが、美しい自然の中に静かな佇まいを見せる神社仏閣など多くの重要文化財が遺る心の文化と歴史を伝える観光の地でもあります。

また、「めのう細工」「和紙」等の伝統工芸にも力を注ぎ、特に若狭塗は約400年前に小浜藩で完成された技法で、漆を十数回塗り重ね、研ぎ出し、独特の重厚感、風格で家具、食器、箸の製造に用いられています。中でも箸の生産量は全国一で、オバマ大統領の就任時や、洞爺湖サミット、今回の伊勢志摩サミットで各国要人に小浜の箸が贈られています。

私も地元箸メーカーが全国的に推進している「箸知育教室」に興味を持ち、東京中央区の幼稚園、小学校を中心に呼びかけ、箸の文化、箸の正しい使い方、そして世界で一つのマイ箸作りの教室に微力ながら支援をしています。

町を盛り上げる要素にはその地域における「食」「祭」「観光」が大きく関わりあっています。海の幸、山の幸、放生祭（京都祇園祭に似た山車、神楽、獅子舞、大太鼓の練り歩き）、重要文化財級のお寺、日本海の荒波によってもたらされた景勝（蘇洞門）等、我が郷里は全ての要素を備えています。

近年、北陸新幹線の停車駅候補地になっている事も明るい材料となっており、微力ながら今後もあらゆる機会を通じてPRに努め、汗をかいて参りたいと思っています。

「若狭おばま御食国大使」のデータ

■制度の発足：2001年9月 ■大使の人数：70名
■大使の主な活動：本市の観光PR、観光やまちづくりに関するご助言またはご提言

■大使に提供しているもの：御食国大使の名刺、「広報おばま」（毎月）、「食文化館だより」（年4回）、パンフレットや各種刊行物等
■制度の所管連絡先：小浜市企画部食のまちづくり課
TEL0770-53-1000

かねがさき交流会原宿で開催

金ケ崎町農林課係長
渡邊 久美子

アスパラガスなど 地元食材をPR

岩手県金ケ崎町（かねがさきちょう）のイチオシといえば、「グリーンアスパラガス」。5月—長い冬を終え、柔らかな春の日差しを浴びながら空に向かいまっすぐ伸びたそれは、緑の色が濃く、太くて立派で非常に甘い。

その新鮮な朝採りのアスパラガスを、首都圏にいる方々に味わっていただき、金ケ崎町産アスパラガス、そして、金ケ崎町のファンを増やすため、「2016アスパラダイス金ケ崎～かねがさき交流会in原宿ベニーレベニーレ～」を開催した。開催したのは、去る5月19日（木）。当日は、元岩手県知事の増田寛也氏をはじめ、地元選出の国会議員や農水相、総務省等の幹部、在京金ケ崎人会の役員、町産のアスパラガスを一手に引き受けている東京シティ青果や地域活性化支援センターの椎川忍理事長など、金ケ崎町にゆかりのある関係者約50名を招き、旬のアスパラガスをふんだんに使った特別メニューでもてなした。

ベニーレベニーレの菊池料理長は、岩手県遠野市出身。岩手県の食材をこよなく愛する彼のおかげで、金ケ崎町産のアスパラガスは、「アスパラガスと八幡平サーモンの王冠仕立て」、「パンチェッタで巻いたアスパラガスのフリット」、「三陸の平目とアスパラガスのレモン風味」「極上！いわて奥州牛とアスパラガスのグリリア」と前菜からメインまで4回も姿かたちを

変え、参加者の目や舌を楽しませることができた。採れたてを塩ゆでしてガブリといくのもいいが、フォークとナイフで上品に味わうのもまた格別であった。煮てよし、焼いてよし、揚げてもよしのアスパラガス万歳！

会場には、金ケ崎町のPRキャラクターである「ガースくん」も現れ、参加者全員に同月28日に開催した「第7回アスパラ収穫祭」の招待状を配った。収穫祭の当日、会場に招待状を持参したらアスパラガスプレゼントという特典もあったが、結果はゼロ。やはり、東京と岩手は近いようで遠い。

「ガースくん」は、町PRキャラクター「アースくん・パーラちゃん」夫妻の長男で平成26年5月5日に誕生。アスパラガスなので成長が早く、平成27年4月には幼稚園に入園。今年は飛び級し、現在幼稚園の年長児である。アースくん、パーラちゃんは、町の臨時職員に採用されて以降、アスパラ振興に励んでいる。二人は出会い、結婚し、さらに家族が増えたという「生きた」PRキャラクターである。

さて、交流会の締めは、「アスパラパラパラパラダイス」の曲に合わせたダンス。実は、町の農林課職員はいつでも「わがまち金ケ崎」をPRできるように役場で毎朝踊っている。元気の源は食べ物から。アスパラ料理を味わった参加者も特製のはっぴを羽織り、会場内で一緒に元気にダンスを楽しんだ。



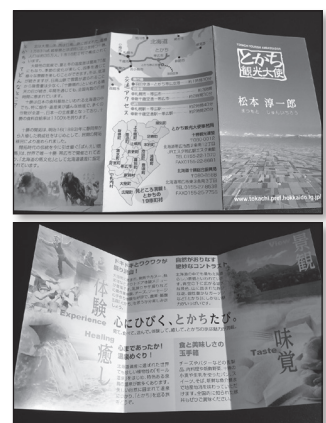
大使制度の 小道具 ——— 「とがち観光大使」

北海道の「とがち観光大使」は十勝観光連盟と北海道の出先機関である十勝総合振興局の2つの団体が所管する。帯広観光コンベンション協会が委嘱していた「帯広市観光大使」を2014年3月に発展解消した制度で、十勝管内ゆかりの人に委嘱する。

名刺は3つ折りで、表の名前の面は畑が広がる十勝平野と青空を全面カラーでバックに使ったうえ、手書き風の「とがち観光大使」の肩書を入れてあり、インパクトの強いものになっている。名前につながる面には、交通アクセスとマップ、十勝19市町村の名前と配置がわかる図の面と、も

う1面でとちの自然や歴史などのプロフィールが紹介されている。

裏を開くと3つの面を1つのページにして「景観」「味覚」「体験」「癒し」それぞれの良さをアピールしており、名刺がまさにミニパンフレットの役割を果たしている。



元副代表の川守田孝平さん（83）逝去



全国ふるさと大使連絡会議の元副代表で、はこだて観光大使、道南会前会長（現相談役）の川守田孝平さんが5月31日逝去されました。83歳でした。6月5日、横浜市鶴見区の「鶴見ほうさい殿」でしめやかに葬儀が行われました。4日の通夜には当会からは浅田和幸代表をはじめ、理事で道南会会長の葉袋泰氏、道南会幹事の古井勝春氏らが参列し、最後のお別れをしました。

川守田さん、ご尽力ありがとうございました。

全国ふるさと大使連絡会議 代表 浅田 和幸

川守田孝平さんは函館市が「はこだて観光大使」制度を創設した平成7年当初からの大使仲間であり、今や数少ない当会草創のメンバーで、会の活動をずっと支えてきてくれた頼もしい先輩でした。

いつも物静かで控えめながら、物事の道理はきちんと押さえて発言される。また黙っていても、自分がすべき行動は黙々とやる。川守田さんはそういう方でした。

毎年の全国大会では、得意のカメラで会場の写真を撮影していただき、大いに助かりました。また、大会に出展する函館の特産品を自腹で購入して提供なさり、いつも函館を愛し、気にしておられました。6年ほど前には東京で「はこだて観光大使の会」の発足にまでこぎつけ、数十名の大使に集まっていたのに、その後体調を崩されて活動が途切れたのは申し訳なくも残念なことでした。

永年、当会の副代表を務めながら、近年は病気療養のため、役をはずれておられたため、たまに会合でお会いすると「すみませんね」と申し訳なさそうにおっしゃるのが恒例でした。昨年お電話でお話した際は、お元気そうで、そろそろ復帰できると期待していたところでした。残念でなりません。

心からご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

追悼・川守田孝平さんのこと

はこだて観光大使 葉袋 泰（道南会会長）

前副代表として長年、会の運営にご尽力いただきました川守田孝平様が5月31日ご逝去されました。誠に残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

川守田様とは東京函商同窓会でお会いしてから40年、一緒に役員をして会の運営に携わり、ご指導をいただいて参りました。また、道南会へのお誘いを受けて入会してから30年。川守田様は、「縁」と「絆」を大事にし、ふるさとを愛し、ふるさと会を大事にする郷土愛のお気

持ちが強く、私たちを引っ張って下さいました。会報道南NO.48・平成20年 夏号に掲載されておりますが、「函館弁を愛する会」の運営にも中心になって活動し、意識して函館弁で喋りあったことが懐かしく昨日のように思い出されます。

はこだて観光大使になるように勧められたのも川守田様からで、その縁で、「全国ふるさと大使連絡会議」に参加するようになり、川守田様は副代表として活躍され、毎年全国大会に誘われて参加し、函館のPR発表をしたことを懐かしく思います。川守田様が体調を崩されてから、後任として昨年から理事に任命され、活動しております。

昨年の創立20周年記念大会に出席出来なかった事が残念でなりません。

長い間大変お世話になりました。

合掌

川守田さん 天国に行くのは早過ぎましたよ！

はこだて観光大使 古井勝春（道南会幹事）

人間、一度は死を迎えることはわかっていても……死は悲しい、寂しい限りです。

訃報を聞き、悲しみ一杯です。

貴方とご縁があって知り合ったのが「道南会」。1966年に姉の勧めで入会、それからお付き合いが始まりました。長いようで短かったお付き合いでした。自然な笑顔で接する姿と言動は、私の脳裏から離れません。

人望厚く、ふるさと大使連絡会議の副代表や道南会会長等、多くの役職を歴任されました。思いやりがあり、心優しい人柄は会員諸氏に親しまれました。特に際立つのが、①偉ぶらない②同じ目線で考え、行動する③気配り、目配り——でした。

道南会の諸行事には積極的に参加し、会員諸氏を楽しませてくれましたね。幹事会、飲み会、花見、ゴルフ、見学会等々、楽しい思い出をたくさん作ってくれました。

これらの場面、場面が会員諸氏の人生の一コマや財産になるでしょう。あなたの会長時代に「どうなんかい」は半世紀＝50周年を迎えました。記念誌も発行され、喜びは人一倍であったと思います。

ハイキングクラブでも活躍されました。登山も1000座を目標に頑張っておられました。達成を目前にして天国へ召され、残念至極だと思います。残りの座は“自然な笑顔でもって”天国の山々を踏破してください。

以前、胃の手術をされましたが、元気に活躍されていました。が、昨年秋ごろからお顔を拝見しなくなり心配していたところへの訃報でした。心からお悔やみ申し上げます。83年の人生、お疲れさまでした。安らかにお休みください。 合掌



「お元気な頃の川守田氏（左端）、右端は筆者」

インバウンドに携わって思うこと

水戸大使 田村 久雄

（ジャックス ツアーズ インターナショナル社長）



インバウンドという言葉をもっと頻りに耳にします。外国に出かけるアウトバウンドに対し、外国から日本にやってくるのがインバウンド、つまり訪日旅行（客）のことです。私は60年前の東京オリンピック開催時の頃にこの業界に入り、通訳案内や手配業務に長年関わってきました。インバウンド業界は外貨獲得のため、政府から奨励されていた時代がありました。その当時の旅行会社の業務はインバウンドが主で、海外旅行など夢のまた夢でした。

時代と共に外貨放出というアウトバウンドに方向転換し、円高で苦しむインバウンド業界は、国際的行事の1970年大阪万博（南米から多数訪日）、1988年つくば科学万博（韓国から多数訪日）等の開催で生き延びて来ました。一方、海外旅行はビーチサンダル履きでハワイに行けるほどに普及しましたが、外国人旅行客は増えていませんでした。

ビザ（査証）の問題や経済的問題で訪日できない国々の方が多い状況で、政府は招待外交を重要視し、多くのオピニオンリーダーを招待して日本をPRしました。私は70年代半ばには国際交流サービス協会で勤務、外人旅行部長として接遇案内をしたこともあります。

日本航空はインバウンド課を設け、各国の支店へ集客を要請すべく日程案を作成して提出したこともありました。また韓国の海外視察企画会社を訪問して視察日程案を作成し、建設業界、食品業界、教育関係者等、あらゆる分野の方々に誘致しました。こうしたことは、世界の国々が平和と友好で結ばれ、経済的余裕があり、ビザなしで旅行できる状況があってこそ可能です。

日本には魅力的なものが数多く埋もれています。訪日客の主な目的をみると、欧米の客は神社仏閣を好みます

が、アジア人は買い物と食事が主体。昔は富裕層が多く、日本の雰囲気を楽しむ観光客が多かったが、今はごちゃ混ぜになっています。共通して言えるのは、日本がクリーン（街が清潔）で、サービスが良く、治安が良いことに対する評価で、どの国のお客からも評価が高いです。

最近中国の爆買い旅行が話題になっていますが、40年ほど前にも台湾の爆買い（塩鮭、毛布、リンゴ等）ツアーがあり、20年ほど前には韓国の爆買い（電気製品、主に炊飯器等）ツアーもありました。かつて日本人が海外でウイスキーをしっかりと買い込んだのと似たようなものです。今後は爆買いも減っていくでしょう。一過性ではなく、全世界からコンスタントに訪日する『インバウンド王国』になることを願っています。

そのためには買い物はもとより、景勝地の観光、工場見学等の視察旅行、日本の歴史・文化・風俗習慣を紹介し、日本独特の“おもてなし”でリピーターを増やすことが第一だと思っています。

おもてなしに関して言うと、普段の心遣いで良いですが、差別しないこと、その国の事情を知ることが大切です。例えば、ベジタリアンや宗教による食事制限者への配慮が必要です。韓国人には北朝鮮人経営のレストランを避けるように気を配りました。

逆に注意したい点としては、相手国の宗教、風俗習慣や慣習を知ること。ただ、親切過剰も失礼になることもあります。パプアニューギニアの国会議員たちに高層ホテルを選んだら、実は畳の旅館の方が喜ばれたということもありました。一夫多妻の国の家族の第1婦人は誰かといったことにも気を遣わないといけません。

多くの外国人に日本の良さを知ってもらおうと同時に、ふるさと応援にも微力ながらお努め出来れば幸いです。

池田さなえさん、演劇に挑戦



当会会員のはこだて観光大使で歌手の池田さなえさんが演劇に出演、新たな活動に意欲を見せておられます。

「歌と芝居のコラボレーションLIVE」と題する公演で、6月18日（土）午後、新宿区の「劇空間えとわーる」で約3時間にわたって行われ、池田さんは4人の役者とともに芝居を熱演された後、新曲の「明日のわたし」などの歌を披露されました。

今後も歌だけでなく、お芝居にも挑戦していくそうです。



ふるさとデー高知の集い 銀座のアンテナショップで開催

久しぶりの「ふるさとデー」を6月11日（土）東京・銀座の高知県アンテナショップ「まるごと高知」の2階のレストラン「おきやく」で開催しました。参加者は急遽欠席をのぞく13人と少数でしたが、その分、お互いに会話がはずみ、中身の濃い交流ができました。

「ふるさとデー・高知の集い」と題した会は午後5時半に開始。まず、高知県東京事務所長の勝賀瀬 淳氏がカラー刷りの資料を添えて高知県の現状を30分以上にわたって紹介されました。続いて参加者の自己紹介があり、いよいよ本番の、「郷土料理と地酒を味わう」懇親会に移りました。

料理は、「りゅうきゅう」の酢和え、四方竹、イワシの稚魚「ドロメ」、カツオの塩たたき、ウツボのたたき、手長エビのから揚げ、田舎寿司と、郷土色たっぷり。これらを肴に、皆さん、土佐鶴など地酒のほかワインなどを味わい、楽しい時間を過ごされました。 高知県観光特使 小山 勝



「日本橋とやま館」6月にオープン

首都圏と富山県をつなぐ情報発信拠点が東京・日本橋に6月4日、新しくオープンした。

当館は新しいアンテナショップのスタイルで「上質な暮らしを富山から」をコンセプトにデザインされた。内装・外観（表札に相当するロゴマークは有名デザイナーによるもので、乃村工藝社の監修を受けた）など、素晴らしいもので、まさに富山県のアート、伝統工芸などを表現したショールームであり、県のミニ美術・博物館の印象を受けた。

館内（143坪）は観光交流サロン、ショップ、和食レストラン、バーラウンジの4つのフロアがある。いずれのフロアも床面、壁面・机・カウンター・テーブル・椅子・飾り棚などが県産材にこだわって使用され、富山県ならではの工夫で表現されている。各フロアは次のような機能を持っている。

所在地：東京都中央区日本橋室町1-2-6
日本橋大栄ビル1F
営業：年内無休 10：30～21：00
TEL：03-6262-2723
館長：山下章子さん

- ◇観光交流サロン—館内の総合案内、観光、定住・UIターン情報提供
- ◇ショップ—衣食住遊の上質な暮らしを彩る商品約700点を取り扱う
- ◇和食レストラン「富山はま作」—富山の海・山の幸を東京で堪能できる
- ◇バーラウンジ「トヤマバー」—17の蔵元の地酒による飲み比べや、軽食もとれる催事・イベントの交流スペース

日本橋・三越新館の真向かいという便利な場所にあり、ぜひお立ち寄りをお勧めします。有楽町（東京交通会館地下1階）にある従来の「いきいき富山館」は県産品の物販と月ごとの実演販売、イベント中心のアンテナショップとして引き続き大盛況です。



（常任理事 利重 盛久）

大阪「裏なんば」が熱い

大阪の繁華街と言えば、梅田界隈の「キタ」と難波・心斎橋界隈の「ミナミ」が代表格だが、近年は「裏なんば」が熱いそうだ。

筆者は「はこだて観光大使」だが、生まれは大阪市。時折、大阪に行っては、年々の変貌ぶりに「今浦島」の気分になる。そこで過日、足を踏み入れたのが「裏なんば」だった。難波から日本橋、黒門市場に至る「千日前」を中心としたエリアを指し、2010年に10店ほどで始まっ

た集積がここ数年で100店以上の飲食店が並ぶホットゾーンになったという。

ランチからディナーまで和洋中なんでもあるが、多くの立ち飲み屋が競い合い、夜になれば、通路に人があふれ、若い女性もぐいぐいと杯を重ねる。隠れ家的な店も多く、はしご酒にもピッタリ。

大阪の人口と庶民性に合ったコンセプトなのかもしれないが、他の地方でも何かヒントになるものがあるように思える。大阪に行かれることがあれば、立ち寄ってみてはいかが。

（はこだて観光大使・浅田和幸）

アンテナショップを訪ねて 「まるごと高知」

今回は銀座1丁目にある高知のアンテナショップ「まるごと高知」を訪ねた。ここは、平成22年8月に開店したもので、一般財団法人高知県地産外商公社によって運営されている。高知県の「ヒト・モノ・コトの情報発信拠点」として設立されたもので、百貨店等への外商活動と結びつけて、そのアンテナショップとして位置づけられている点が特徴である。

1階と地下は、39坪でそれぞれ食品と物産のショップとなっており、2階はレストランの「おきゃくさん」を運営している。

客数は、平日で1200～1300人、土日は2500～2700人であるが、一般客が60%を占めている。アンケートによると、高知県に直接関係する人は8.9%と意外に低い。

全体のコンセプトは「高知家（コウチケ）」で高知県と直接かかわりがあるかどうかにかかわらず、皆、家族のようにもてなしたいということである。売れ筋商品としては、第1位が「万能おかずしょうが」、「ユズのジュース」、「イモケン」、「ミレビスケット」などがあがっている。

高知といえば坂本龍馬、よさこい、はりまや橋などを思い浮かべるが、全体として情熱があり、勢いのある地域であることを感じ取れる。

東京都中央区銀座1-3-13 03-3538-4368

常任理事 鈴木克也



（特産品が並ぶ「まるごと高知」の店内。右端は高知県地産外商公社の事務局長、戸田泰史さん）



「がんばろう熊本！応援ツアー」のご案内

震災で被害に遭った熊本を応援しようというツアーをご紹介します。当会が寄付先を予定している「NPO法人 熊本の夢と文化を育てる会」（帆足秀樹理事長）らが共同企画しているもので、以下の趣旨に賛同される方は是非ご参加ください。

2011年東日本大震災の時、「くまモン」を繰り出し、一生懸命応援してくれた熊本が、今度は大変なことになっています。在京の東北出身者、復興支援に関わられた方々、熊本ゆかりの方々、初めての方もみんなで熊本応援に行きましょう。80万件のキャンセルで観光客が激減し、熊本県は復興のため割引ツアーを実施中。その対象ツアーです。

■日 時 9月17日（土）～19日（月）2泊3日

■参加費 3万円前後（航空運賃・宿泊費含む）
限定40名

17日（土）朝・羽田空港発—阿蘇・熊本空港—益城町被災地訪問—仮設住宅慰問—熊本城を経てホテルへ
一夜は熊本関係者と懇談会

18日（日）8時半ホテル発—南阿蘇村被災地訪問—仮設住

宅慰問—南阿蘇村宿泊

19日（月）8時半ホテル発—阿蘇観光—阿蘇熊本空港から夕方帰路へ

※熊本市内・阿蘇市、南阿蘇村の仮設住宅集会所2カ所で演芸会。催し内容＝「がまだす熊本！がんばっぺし東北！」（歌、踊り、抹茶）＝藤間浩菊、秩父さくら、他募集中
移動は借り上げバス。宿泊は地元の宿。夜は社交料飲会員の店を利用。

■共同企画

- ・NPO 法人 熊本の夢と文化を育てる会（理事長 帆足秀樹）090-4994-1881
- ・NPO法人 元気になろう福島（理事長 根本二郎）090-5212-8265
- ・和文化研究会（代表 藤間浩菊）090-8800-6934
- ・大坂周平（岩手・陸前高田会）、邊見輝夫（東京福島県人会）、井上宙史（東京飯田橋ライオンズクラブ）、その他

《投稿 募集》

ご自身の作品発表、展示会など、皆様がかかわるイベントの案内をできるだけ多く掲載したいと考えています。事前の案内だけでなく、事後の結果報告も歓迎です。かわら版は速報性がないので難しい面もありますが、ふるさとの行事のPR等も含め、多くの会員・地域の話題を掲載したいと思います。ぜひご一報ください。

＜大会充実に向け、ぜひお知恵を＞

秋の全国大会の概要が固まり、1面にご案内を掲載しましたが、大会を魅力あるものにするため、さらにプログラムを充実させたいと願っています。地域活性化の実践報告や元気の出るイベントなど、ぜひ名乗りを挙げてください。また参加者の呼び掛けや特産品のご提供等もぜひお願いします。

第11回「大名庭園民間サミット熊本大会」中止

水戸大使、小石川後楽園庭園大使
本多忠夫

全国10カ所の大名庭園を守って、一人でも多くの人に知らしめようという民間による団体が年に1回集まり、大名庭園サミットを開催してきました。今年は11回目の熊本水前寺公園で11月に開催する予定でしたが、巨大地震に見舞われたため中止となってしまいました。実に残念でなりません。がやむを得ないことです。

熊本城の被害は大きく報道されましたが、水前寺公園も大きな被害を受けたとのこと。1日も早い復興を願うばかりです。来年、熊本で大会が行えるかどうかは難しいので、今年はお休みし、来年は岡山後楽園大会ということが決まっております。

今回のテーマは10の大名庭園を合わせて「世界遺産を

目指して」というものでした。来年の岡山での大会テーマも同じく「世界遺産を目指して」ということで行われます。

現在日本では自然遺産と文化遺産で19カ所が指定されていますが、先日、上野公園にある近代美術館がル・コルビジエの設計した建物で、海外の作品とともに世界遺産に指定されたばかりです。私達も出来る限り早い時期に世界遺産の登録を目指してがんばっていきましょう。

ご関心がおありの方はNPO法人小石川後楽園庭園保存会に入会していただき、ともにがんばって行こうではありませんか。

「ふるさとデー」 主催者募集中

都道府県単位のふるさとにこだわった交流会「ふるさとデー」を主催してくれる方を募集しています。6月には久方ぶりに「高知の集い」を開催しましたが、今回のように少人数でも結構です。多くの地域の集いできれば、それだけふるさと・地域への理解も深まります。これまで、山形県、新潟県、山口県、北海道、東京、秋田県などをテーマに開催してきました。あなたのふるさとを中心に、ゆかりの方や関心のある人たちが集い、郷土料理やふるさとの話題を楽しむ気軽な集まりです。ぜひ名乗りを挙げてください。

事務局からのお知らせ

事務局専用のメールアドレスができました。kaigi@furusato-taishi.jp です。従来のkasatora7@jcom.home.ne.jpは代表個人のアドレスですので、今後は事務局アドレスをご利用下さい。

全国ふるさと大使連絡会議の概要

(2016年4月末現在)

- 設立年月 1996年8月8日
- 目的 各地において制度化され、委嘱されている「ふるさと大使」および「委嘱者」相互の情報交換・交流・連携を図り、全国のふるさと・地域の活性化に貢献することを目的とし、その達成のために各種の事業を行うものとする
- 会員の資格
 - ①ふるさと大使
 - ②ふるさと大使委嘱団体関係者
 - ③ふるさとを愛する人々等
- 会費 所定の会費(3,000円以上、団体会員は10,000円)もしくは相応の貢献寄与をしなければならない

2016年4月末現在の会員構成

大使会員	144名
団体会員	28団体
一般会員	164名
合計	336名

確認された大使制度

(2016年4月末現在)

県知事が委嘱	44団体	85制度
市長村長が委嘱	549団体	626制度
諸団体等の長が委嘱	134団体	136制度
合計	727団体	847制度

2016年度年会費納入のお願い

年会費は個人会員3000円以上(3000円以上大歓迎)、参与会員5000円、団体会員は10000円ですので、2016年度年会費の納入をよろしくお願いいたします。

*郵便振替(同封の郵便振替用紙)をご利用ください。

*郵便振込の場合

店名—038 普通 7211051 口座名：全国ふるさと大使連絡会議

*銀行振込の場合は下記へお願いします。

三菱東京UFJ銀行 亀戸支店 普通 0173146

口座名：全国ふるさと大使連絡会議

編集後記 元副代表の川守田孝平さんが亡くなられたのは、大変残念で、かつ当会にとっても大きな痛手です。お元気な頃は会の行事には必ず出席され、受付のような裏方業務も黙々と引き受けてくださり、頭の下がる思いでした。

当会も21年目に入り、草創期の頃の顔ぶれが目立って少なくなりました。高齢化等で「各種行事への参加がままならない」とおっしゃる方も増えています。残念なことです。新陳代謝は世の常。会にとっては逆に若い方たちの入会とその力の発揮が必要です。ふるさとの元気を応援するはずの当会が元気を失っては意味がありません。老若男女が集えるよう、ぜひとも皆様のご協力をお願いします。

今回、秋の全国大会の概要が固まり、ご案内を掲載しましたが、大会を魅力あるものにするため、さらにイベント等も充実させたいと願っています。ぜひお知恵をお貸しください。また参加者の呼び掛けや特産品のご提供等もぜひお願いします。」

昨年の全国大会にも登壇された岩手県金ケ崎町が東京・原宿で開いた交流会の様を同町農林課の渡邊さんに寄稿していただきました。編集子も出席しましたが、地元食材をおしゃれな料理に仕上げて可能性を大いにPRされました。こうした元気な取り組みが各地でみられることを期待しています。

ふるさと大使かわら版 2016年7月26日—平成28年夏季号—(通巻80号)

◇発行：全国ふるさと大使連絡会議(代表＝浅田和幸)

◇編集責任者：浅田 和幸

◇事務局：〒167-0032 杉並区天沼3-7-3 荻窪法人会館3階

一般社団法人ザ・コミュニティ内 全国ふるさと大使連絡会議

TEL：03-5335-7514 FAX：03-5335-7592

Email：kaigi@furusato-taishi.jp